

## 総合心療センター メンタルリハビリテーション部

部長 山内 学

---

### 当部門について

今年の総合心療センターのメンタルリハビリテーション部門は、4月には1名の公認心理師の入職にてスタッフの増員ができました。心理カウンセリングや心理検査などの対応も増えてきています。9月には、作業療法士の産休及び育休の対応として、1名の作業療法士が増員されました。このことにより、プログラム運営においては影響が出ることなく行えています。

各部門においては、年明けからのコロナ感染対策において多くの制限や運用の工夫を求められている現状は継続しています。コロナ禍における、各部門の対応ではこれまで実施してきたこと変更しなくてはならない状況です。3密（密閉、密集、密接）を避ける行動様式では、多くのプログラム実施において変更が必要でした。経験あるスタッフが多いため、現状からできることや環境や内容の変化をすることで対応が早期にできました。このことは、他のスタッフや対象者への安全・安心につながりました。しかし、ソーシャルディスタンスをとることでのコミュニケーションの難しさという課題も出てきました。環境の変化において、スタッフ間においても同様の伝わらないことやわからないことが増えてきている現状があります。そのため伝達方法や頻度やポイントを絞ることも求められています。

デイケア部門では、継続して復職や就労支援に取り組むことが出来ています。外部との調整や交渉の難しさはありながらも、対象者を次のステップに進めることに力点を置いての運営はできています。経験あるスタッフ集団であるため、スムーズに進む場合もありますが、環境調整や回復度の進展においての課題が多いため多岐のかかわりが求められています。対象者が卒業していくことで、参加が少なくなることもありながらの運営には大変さも見受けられます。

作業療法室では、入院に対する作業療法プログラムの変化が大きいものでした。環境調整や個々のレベルが違うことでのグルーピングが難しいために、小グループ化していくことや内容を変更することでの対応をしています。外来作業療法の参加者は増えています。参加や定着していますが、安定を目標に参加する方が多いため次の展開が出来ていない課題も残しています。

心理室部門は、デイケア部門でのスタッフ機能を心理職の視点で発揮してくれています。構造化された中での環境から大きく変化を求められています。心理室では面接(カウンセリング)や心理アセスメントやリエゾンチーム医療やストレスチェックなど件数は増えてきています。公認心理師としての活躍が期待されながらも、医療点数には反映されない状況が続いています。

今後も、コロナ禍での変化を求められながらも急性期医療での回復度のアップすることや在宅サポートへの質の高いサポート実践していく中で他部門との連携を強化に取り組む体制でいきます。